



気をつけよう！感染症（令和8年第5号）

令和8年5月発行
松本市保健所保健予防課

日本国内で海外からの麻しん輸入症例が増加しています

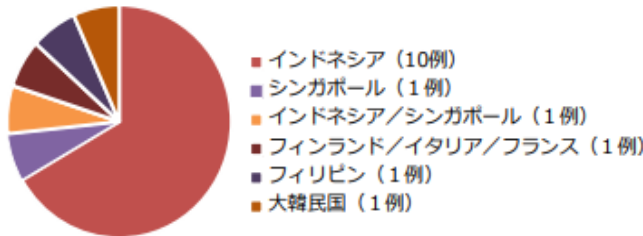
世界での麻しん状況

麻しん報告数上位10の国々

国名	報告数
イエメン	11,288
インドネシア	10,744
インド	9,666
パキスタン	7,361
アンゴラ	4,843
ラオス人民民主共和国	3,167
メキシコ	2,846
ナイジェリア	2,755
アフガニスタン	2,668
モンゴル	2,551

WHO(世界保健機関)麻しん報告数(2025年7月～2025年12月)
令和8年2月現在：一部改変

日本国内で届出された麻しん症例の推定感染地域



2026年第1週～第9週（令和7年12月29日～令和8年3月4日）

出典：厚生労働省ホームページ

【感染経路】

- 麻しんウイルスは感染力が非常に強く、空気感染等により人から人に感染します。
- 麻しんの免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症すると言われています。

【症状】

- 感染すると約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3 日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。
- 肺炎や中耳炎、脳炎などの合併症を発症することもあります。

海外に行く前にできること、帰国後に注意すること

麻しんは感染力が強く、空気感染するため、手洗いやマスクだけでは予防できません。麻しんの最も有効な予防法は予防接種です。

【海外に行く前に】

- 麻しんの予防接種歴を母子健康手帳などで確認しましょう。
- 定期接種を受けていない方は、接種を検討してください。

【帰国後に】

- 帰国後2週間程度は発熱、全身の発しん、咳、鼻水、目の充血などの症状に注意しましょう。
- 麻しんを疑う症状が出たら、事前に医療機関に電話等で相談したうえで受診しましょう。



詳しくは松本市ホームページ「海外渡航時は感染症にご注意ください」をご覧ください。
<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/230/137825.html>